

Y01b 科学や技術に特化したジャーナリズムを担う人材について

中村 理 (早稲田大)

研究成果をメディアを通じて広報する際、研究者とジャーナリストの間で相互の理解が十分でないために生じる不満やトラブルが、天文学の世界でも報告されている。いわゆる「ミスコミュニケーション」と呼ばれるものである。理解不足の原因は研究者とジャーナリストのそれぞれにあることは言われて久しい。例えば研究者は個別のメディアの性格を理解する必要がある。新聞を例にとると、そこでは紙面と記事にするまでの時間が限られているほか、一般読者のために分かり易さを主眼とする記事にする必要がある。一方ジャーナリストは、科学者が大切にしている正確さを理解し、分かり易さとのバランスをとることが大切である。そのためには科学技術の素養を持つことが必要となる。また、研究スタイルや論文発表までのプロセスなど、科学者の研究上の慣例についても知識を有することが望ましい。

しかし、こういった人材を専門に養成する機関はこれまでになく、多くのメディアは現場の実践によって個別に対応をとってきた。この状況を改善する一つの試みとして、早稲田大学は文部科学省の科学技術振興調整費を受け、科学や技術のためのジャーナリストを養成する大学院コースを設立した。発表では以上に関連して、早稲田大学の試みの視点とそれに対するメディアの受け止め方について報告し、次に科学や技術におけるジャーナリストの将来性について議論する。